

第3回

おはようございます。国語科の黒沢と申します。いま受験生のみなさんが取り組んでいる国語の問題解説をさせていただきます。お手元の問題冊子一ページをご覧ください。

①の説明文は、斉藤淳『10歳から身につく問い、考え、表現する力 ぼくがイエール大で学び、教えたこと』からの出題です。世間でよく言われるグローバル人材とは何かについて述べている箇所です。問一は傍線部(1)のグローバル人材の育成が急務になった背景を問うものです。「グローバル人材」の育成が急務になった背景については、11行目の経済状況の変化が原因と書かれ、12行目の経済活動が日本でおさまらなくなったので市場を海外に求めなければならないこと、少子化による国内市場の縮小などによるとあります。この内容に該当するのはエになります。

問二は37行目にひかれている傍線部(2)をご覧ください。「グローバル人材」を育てるための教育についての筆者の説明を求める問いです。傍線部(2)の後に、日本での英語力強化の例やアメリカ人学生の不安について述べた上で、54行目に「英語ができるのは当たり前。肝心なのはその中身、つまり英語を使って『何を問い、考え、表現するか』がなければ意味がない」とあるので、その部分をまとめます。

問三は、71行目の傍線部(3)をご覧ください。グローバル人材という言葉に対する筆者の違和感の分析については、75行目の空欄Dからの段落とその次の80行目からの段落にまとめられています。

この部分を二行でまとめます。

ポイントとしては、

- ・英語において「グローバル」という言葉と「人材」という言葉は逆の方向のニュアンスをもっていること。
- ・組み合わせることで形容矛盾を生じること。

の二点になります。

問四は95行目からの空欄(4)に入る言葉を入れる問題です。92行目に「一般的な論議」とあるので、空欄(4)は世間一般で考えられている「グローバル人材」についての内容が入ります。すると、英語力強化について述べているイが答えになります。

アの文化の習得や、ウの日本語の学習、エの課題を乗り越える力は本文では世間一般の論議になっていませんので、あてはまりません。

問五は筆者の考えを「グローバル」という言葉の意味を踏まえた上で答える問題です。筆者の考えは100行目からの段落に述べられています。

この部分をまとめ、

- ・これまでの「国対国」の発想から一歩踏み出す必要がある。
- ・自分の主張が相手に受け入れられるかも含めて、多様性に向かい合っていく必要がある。

の二点を入れて記述します。

問六は空欄AからDに適切な接続詞を入れる問題です。段落相互の関係を読み取って入れていきます。Aはエ、Bはア、Cはイ、Dはウが入ります。

問七は漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。アメリカ人大学生についての焦燥については4

7行目からの段落に、また、日本人の考え方については38行目に「英語力強化」と書かれていますので、その内容に合致するイが答えになります。

アでは、「英語ができるようになることが価値の源になる」と書かれています。本文では55行目に英語そのものではなく、中身が大切と言っているため、この部分が当てはまりません。

ウについては、「アメリカ社会が共生社会でない」とは本文では書かれていません。

エについては、「相互理解に努めるコミュニケーション能力」については、「グローバル人材」である前に社会人として身につけておきたいものの資質として挙げられているものなので、「何より大切」とはいえません。

続きまして2の問題文の解説に入ります。蓮見恭子『櫻を、君に。』からの出題で陸上部を舞台にした話です。

問一 主人公の瑞希は無断で大会を欠席してしまい、陸上部のメンバーの反感を買っています。そこで、瑞希は先輩である南原さんに謝りにいきます。南原さんは11行目で「私に言いに来るような事じゃない。そう思うけど」とあり、自分とは関係ない話をなぜするのだろうと持っていることが読み取れます。また、欠伸を噛み殺すのは、退屈な時にそれを悟られないようにするしぐさであることから、以上の二点が入っているエが答えになります。

アは、気楽に聞いているわけではないので該当しませんし、欠伸を噛み殺している動作の意味が入っていません。

イは、いらいらしているわけではないので当てはまりません。

ウは、話の内容が理解できないためうんざりしているわけではないので当てはまりません。

問二は、64行目の傍線部(2)で、大きな息を吐いた高瀬先生の心情について答える問題です。大きなため息をついたのは、気が重いことを表しています。その原因は河合さんの激しい非難が瑞希に向けられているのを見たからです。

49行目には高瀬先生が周囲の様子を窺って、心配してくれていることが書かれています。

まず高瀬先生の気持ちが重いこと、そして気持ちが重い原因である、瑞希を助けようとしたのに周囲に反対されたことの二点をまとめます。

問三では81行目の傍線部(3)の、河合さんの厳しい言葉の背後にある苦勞について説明する問題です。河合さんの苦勞については115行目に高校に入ってからずっと故障で大会に出られなかったことが書かれ、腐らずに頑張った結果、117行目に、最後の最後にチャンスを掴み取ったことが書かれています。

問四は「横」を使った慣用句の問題です。一はイ、二はウ、三はエ、四はア、五はオになります。

問五では、6ページ下段102行目傍線部5の稔の動作から稔の考えを説明する問題です。傍線部(5)の前の部分では河合さんが瑞希のことを断固として許せないと伝えています。また傍線部(5)の、肘で小突いてきた動作は、同意を求めるものです。ここでは河合さんの反応が予想通りであったことに対して稔が同意を求めたものです。予想については23行目「許されたと思ってるんだったら、甘いな。」

とあります。主語を補って「上級生が瑞希を許すと思っているのだったら甘いという考え。」とまとめます。

問六では、7 ページ 147 行目の傍線部(6)の瑞希が唾を呑み込んだ理由についての問いです。傍線部(6)で唾を呑み込んだのは、前文の「蓮池だけが分かっていない」と南原さんに言われ、思いがけなくて驚いたからです。なぜ、思いがけなかったかということ、昼休みの時点では 21 行目に「羽根が生えてるんじゃないかというような身軽さ」とあり、瑞希は南原さんに、理解してもらえたと思ったからであり、そのギャップのあまりの反応です。該当するのは、エです。

アは、がんばろうという気持ちを受け取ってもらえなかったの部分が、イは理解できなかったからの部分が、ウは周囲の非難が高まったの部分が当てはまりません。

問七 擬態語は心情を理解するのにキーワードとなりますので、注意して読んでほしいと思います。A はエ、B はウ、C はイ、D はアになります。

問八 風景描写や比喻表現から心情を読み取る問題です。

アとイは 103 行目の「うなだれる瑞希の影が薄く伸びていた。それも、雲が覆い隠してしまう。」の部分の表現についての設問です。

まずアとイの表現について検討していきます。103 行目の「雲が覆い隠してしまう」は、まさに雲行きが怪しい状態です。

アは「状態が好転」の部分が当てはまりません。

イは「突然苦しい立場におかれた」の部分が当てはまりません。昼休みに会った南原さんも瑞希のことを理解しているわけではなく、放課後における河合さんをはじめとした上級生たちの冷淡な反応はそのままですので、瑞希の苦しい立場は「突然」なわけではありません。

続きましてウとエについて検討します。「バネ人形のように」の表現は 164 行目にあります。

ウでは、先輩たちの反発にあい、孤立していた瑞希が高瀬先生からの言葉を聞き、うれしさのあまりの反応ですから正解になります。

エ 164 行目の「バネ人形のように」、21 行目の「羽根が生えてるんじゃないかというような」という比喻表現は瑞希の弾むような気持を表してはいますが、自分の感情を素直に表現することと、反感を買いやすいことの間に関係は読み取れません。

以上で国語の解説を終わります。ご清聴ありがとうございました。